## ＜森吉山カルデラの概要＞

森吉山カルデラは、約300万年以前の噴火活動のよって、東西約30、南北約25km、周囲120kmのカルデラに標高300～1000mの外輪座17座を連ねる山域であるという。

その森吉山本体はカルデラ中心部を埋めるように、十二単衣を着飾った主峰向岳(1,454m)が山頂部に東西3kmのカルデラを重ねて鎮座する。

森吉山全集水域である奥森吉の小又川と奥阿仁の大又川は、阿仁前田地区で合流し、かつては大きな湖であったであろうカルデラの一角を押し流し、阿仁川になったと想像する。

カルデラ平野部の人口は旧阿仁町地区が2,185人、阿仁前田地区には1,419人が暮らす。

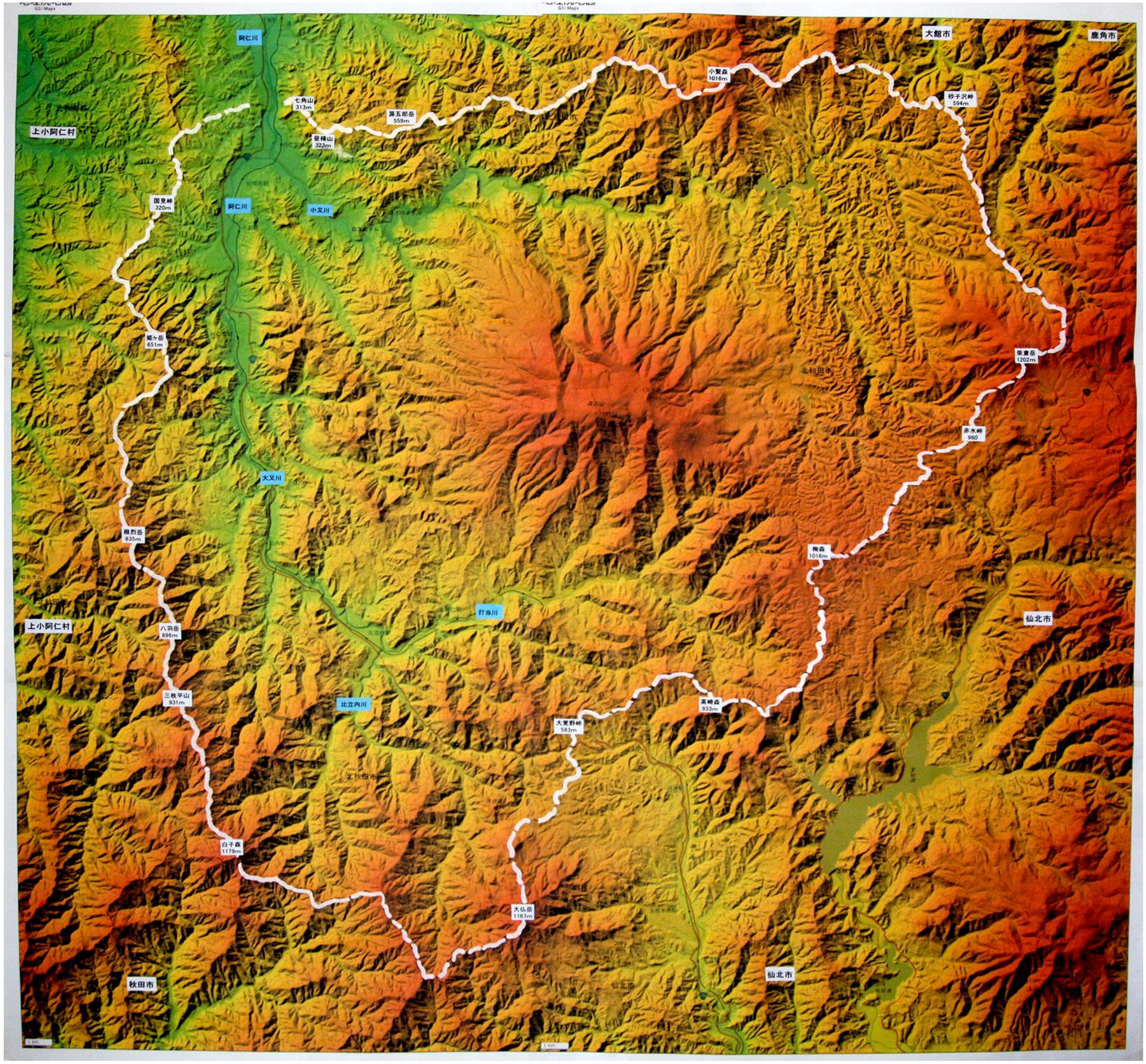
小又川と大又川の流れを従えたカルデラ全域(約５万ha)は、森吉山本体と同化するバッファーゾーン(緩衝地域)として普通地域に指定。その里地里山と山頂から望むカルデラ全景のパノラマは、何処を切り取っても日本の原風景である。

## ＜森吉山を単独の国立公園に＞

森吉山は十和田八幡平国立公園の一角に編入される山域ではない。なぜなら、十和田八幡平地区とは日々の眺望も公園利用の一体性もなく、共に文化圏も経済圏も異なる独立性・独自性を持った山域だからです。

国立公園編入は３県18市町村すべての環境調査と編入合意が必要となり、2030年までの完了は物理的に不可能です。先ずは国定公園の新規指定(昇格)を完了し、目標は約５万haに及ぶカルデラ全域を単独の森吉山国立公園にすることです。

森吉山カルデラ国立公園構想は、九州の阿蘇カルデラをモデルに環境省と協議を進めています。

## （森吉山カルデラ外輪山17座）

※阿仁川に沿って国見峠～姫ケ岳～根烈岳～八羽岳～三枚平山～白子森～大仏岳～大覚野峠～高崎森～ブナ森を分水嶺に小又川を赤水峠～柴倉岳～砂子沢峠～小繋森～源五郎岳～昼様山～七角山に戻る。